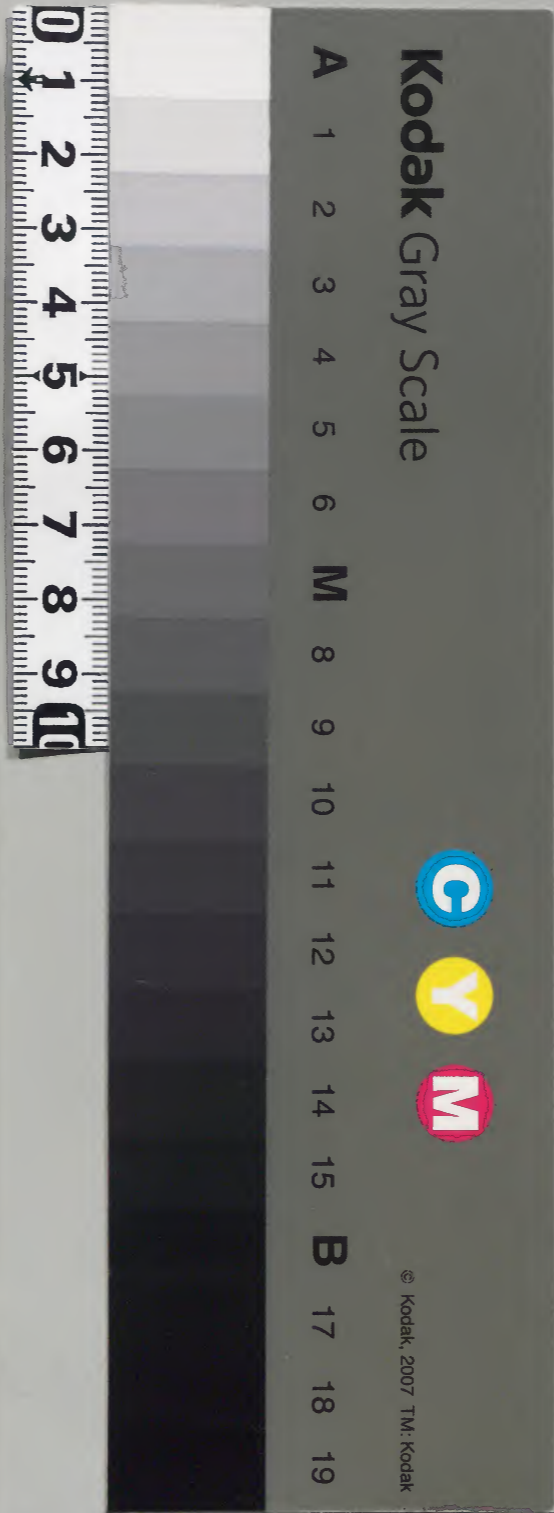


紀伊國名所圖志

六之卷下
那賀郡

内閣文庫	
番號	和 8666
冊數	23 (10)
函號	176 14

庫文閣内	
一七六函	八六六六號
一架	二三冊
	和書類



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

紀伊國各所圖會卷之六下目録

九頭神社

天徳宮

日大権現

一糸の松

御本英林社

藏王権現社

今と鳥石

光恩寺

八幡宮

閑山廟

金谷藏王権現

伊太波神社

勝手林

秤石

比前王子社

炮術家

田村麻呂毒蛇退治

山王神社

田村の軍隊

栄福寺

圓柏樹

捨岩

大帯姫神社

大國神龜神

佐伯神社

丸倉居墓

八王子社

荒田神社

御船神社

根來山

白山大権現

菩提峠

信貴石

愛宕権現

樂靜院

實相院

地藏堂

鼓谷

辨財天社

正智院

莊嚴院

薬師寺

大徳林社

林泉

明良觀音堂

日延藏王権現

吉田山王社

大和神社

正福寺

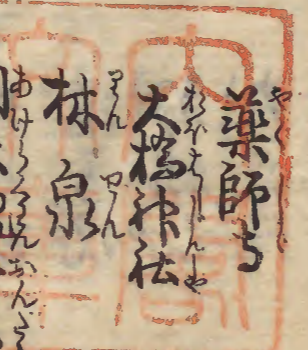
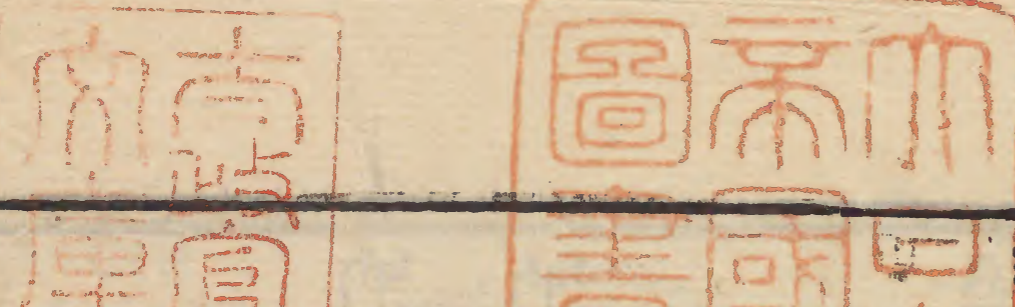
住寺が池

女人堂不動

慈光院

岡伽井

稻荷神社



十輪院跡 密嚴院
毘沙門 大黒天
穀屋 美安野王様
小池坊跡

御南 利益院
大日如来 金剛法壇
尊勝佛頂
虚空藏 護摩堂
觀音堂

大傳法院 龍王社
光明會道場 伊太祈曾社
荒神社 宝幢院
三部神社 車留石
正等院 宝積院
蓮花院 宝生院
美生院 瑞巖院
放光院 福壽院
杉の坊 金佛不動

大門跡 金佛不動

大門跡 金佛不動

大門跡 金佛不動

大門跡 金佛不動

大門跡 金佛不動

大門跡 金佛不動

大門跡 金佛不動

大門跡 金佛不動

大門跡 金佛不動

錐鑽不動尊 求聞持堂 春日社 天神社
來迎之嶽 德藏院
觀音堂 一乘山
大塔 弘法大師堂
骨堂 九社神社
圓明寺 伊影堂 覺徳上人
經藏 文珠堂
智積院跡 律考院
中性院跡 般若院
円仁院 理性院
地藏院 灌雪院
金剛院 靜然院
法蔵院 大慈院
御船山 御船神社

御南 利益院

大傳法院 龍王社

光明會道場 伊太祈曾社

荒神社 宝幢院

三部神社 車留石

正等院 宝積院

蓮花院 宝生院

美生院 瑞巖院

放光院 福壽院

杉の坊 金佛不動

九頭神社 三毛村にあり相殿あり羽の村 武の村 白山村にありの合祀なり

末法 天竺の自天竺 一葉の松 梨雨を避るのわらひあり

當社の紀三毛麻呂の造達ありと云ふ初三毛麻呂の上宮

を子の臣より守屋大臣に討つるものより守屋の兵に

かりとせ

御池山法界院薬師寺 御村にありしんじゆ 本寺薬師子佛 二尺六寸

御本表神社 御村の西にあり御池山 紀伊左大臣手置帆負神

崇徳社ハ神武天皇東征したまふ後をめぐり大和国檀

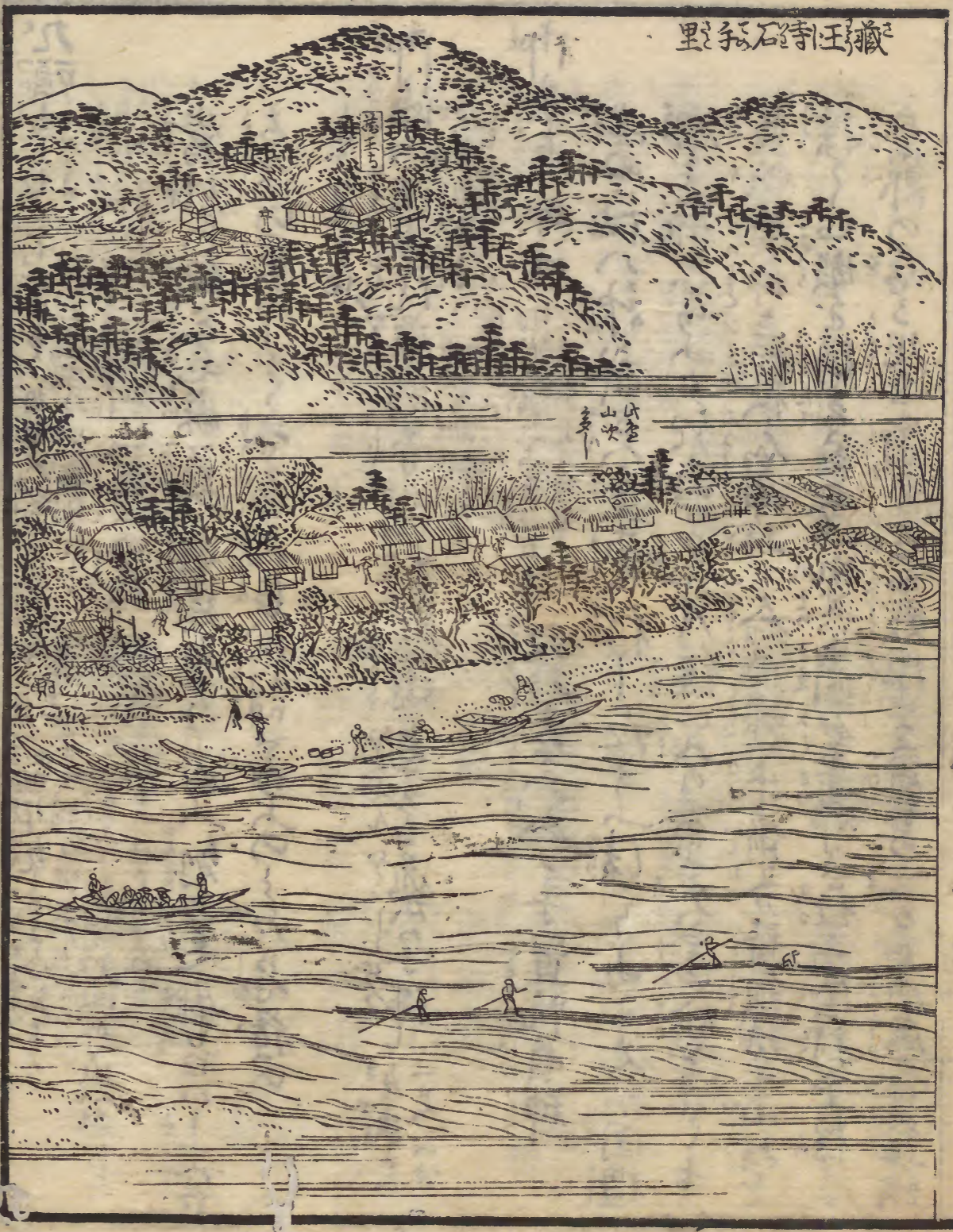
原と都志のふとれた帝宅を經てふとれた富命をめぐり手

置帆負命を遷す命此二命の孫武率齋芥齋錮がて山材を

採りて心殿を構えさせのふれ其高名草那に仕ふ所材を採り

齋部の居る処を所本と云ふ殿化る齋部の居る玉河原香と云ふ

藏王寺石谷里



山次

六丁四十八



紀の川を
さゆり
くさくさ
岩のさ
のさ
ほろろ
あつた
わらわら
なりわい
本居宣三

箱山

御蔵山

洞泉

宮堰水祭

竹

志明

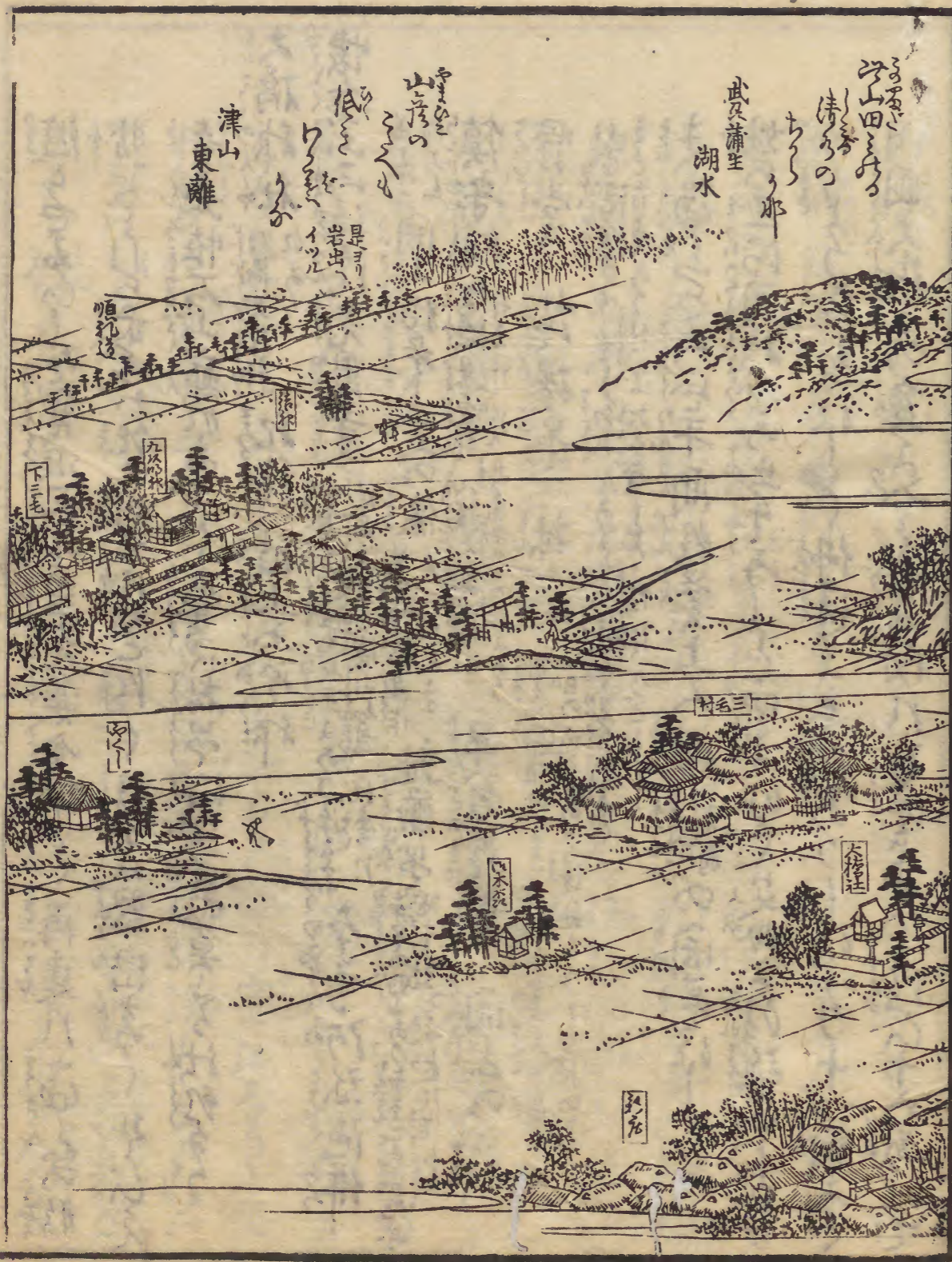
梁先歟陰昔
孰者技疎千
尺碧琅玕雲
梢漏月篩金
散露葉含風
翠玉寒嶺谷
截成鳴鳳管
涓涓裁取釣
魚竿王猷一
去無知已徒
使此君臨曲
欄

詭公美



地富令わい子置帆員今彦杖之仲の子孫の位あへる
とらひく其社神と拜祭のたむつるをらあそくく名州
郡井辺村馬郷里社社の勢よも
藏王権現社
小倉の社
南の山
半橋のあり
金鳥石
の道

杖石
山の入
後家
小倉
の社
一歳の
鳥有
わた
影
民家
の手



渡らるゝを寛永三年里老集會して再建凡田の形
勝とて山にありて川の流るるに後之翠巒ありて
奇名惟石山顛のありて幽鳥の林にありて寂莫なる
大橋神社 紀伊 波止土津
懐岳山三法院光恩寺 本寺阿弥陀佛
田山信譽上人の像 七二尺三寸
曼多羅堂 田山の廟
骨堂 傳授半 林泉 曼多羅堂 田山の廟

美濃と別り武州川越蓮華寺の圓堂上人のゆゑに親
学修練せしむるに依りて法業秘藏を授け林道とて又
圓師の徒弟とありて法業秘藏を授け林道とて又
源後寺九卷上人より戒律を授け世傳の法業秘藏の
印宮御美徳寺に傳へたまふ其後諸国に經過の志し
ありて大和の山にありて其の山に靈地ありて
ありて見たまふと古きありて其の山に靈地ありて
傳へたる茅舎ありて其の山に靈地ありて其の山に
すまひ上人念仏を勤め戒と弘め他力奉願の志と教を
によりて大和の山にありて其の山に靈地ありて其の山に

日圓大掛の堂ありて其の山に靈地ありて其の山に
細くして敷敷にありて其の山に靈地ありて其の山に
姓のこゝに國松の堂ありて其の山に靈地ありて其の山に
まゝの天に年間信譽上人の圓堂上人のゆゑに親
骨堂 傳授半 林泉 曼多羅堂 田山の廟
懐岳山三法院光恩寺 本寺阿弥陀佛
田山信譽上人の像 七二尺三寸
曼多羅堂 田山の廟
骨堂 傳授半 林泉 曼多羅堂 田山の廟

光恩寺
吐前王子

浄土本朝高僧傳曰
小倉光恩寺信蒼上人傳
釋信蒼子惠傳一名ハ
糸丸翁道眼明也常ニ
泥視廣縹之繞纏
於世縁遠離浮雲
之榮耀堂遊化紀
州小倉締茅今之
光恩寺是也性能
詠和歌華晨月夕
以發於思風心頭
無事辯常念寬
永十二年二月日
十念捨報



蓮池
高寺
土乃
及
麥林

泉水の
あし
橋仙



藏王権現
明良親善堂
梓石

石見

石見の岩

抵津
西吟

岩

石見

石見

石見
羊麻

其二



津田氏某たるもの一致ありて終つたをき建しゝるふ
止りてつたもの小石集ちるづら後とこ都後とて
内陣の地中に埋ち履戒の道場とて日十九年四月廿より
常の念佛とてありたるあに七ヶ年の間勤行しなると
を長の姉と上ねを郡村川清見寺の後や中興し
運りて改修す運りて護りて例字を郡滝崎寺日
を多に修す再興し古きをむち麻護念院も
きと住しまたり岩洞廣考虎翁寺相崎信長と
草創し石川濱田虎翁寺銀山石堀を再興し雲川
松江の信樂を創し
月圓誓願寺に修しまたり伯州赤菴信長を徳州
に修しまたり後を修しまたり寺と建ちて人
またり國邊國取を信樂寺と國邊し九蓮庵十二蓮と



鳥銃
 南方一戎器
 奇巧實神哉
 握裏飛輕電
 面可鳴迅雷
 揚空星自露來
 雁隨碧空限
 好是威天下
 千秋護聖靈
 山良由



津田監物長
 根來寺杉の
 月長一子
 徳の
 洗泡
 自來
 松丸
 八世
 宗徳

吐前王子社 吐前村山を町とす。あるは人のたつもの。徳久山幸のありし人とす。

建仁元年。山内素記云。赤山口之王子。次内王子。中村王子。次入益養。假屋。山内所著。那岐之山。垢離。先帝。ハンサキ之王子云々

地術家津田監物。箕長宅 旧村あり。地術家の種。小笠原のすけ。今もそと。

津田監物。箕長宅。旧村あり。地術家の種。小笠原のすけ。今もそと。津田監物。箕長宅。旧村あり。地術家の種。小笠原のすけ。今もそと。

津田監物。箕長宅。旧村あり。地術家の種。小笠原のすけ。今もそと。津田監物。箕長宅。旧村あり。地術家の種。小笠原のすけ。今もそと。



向くに折くも豊潤なる紅日乃やてし中天下翻りて
権現の擁護しむるにたふさふさの終ふなりまに毎時
を退治し長く今氏の吾公のぞたたりてゆまゆまの地ふ
権現を幼侍し竹田崎をあたためて日巡考すの号くともや
是すまら後水枝州お田の押を築くとん後盛るるた亦
と日目の読り

山王神社 山王村あり一村の 紀神日吉山王神といへ

田村の軍塚 田村の西を西にあり一村の

山王神社 右田村あり一村の 九月廿二日 山王神

金剛山寺明院茶後寺 金剛山あり一村の 寺あり

香柏村 二株あり一村の 寺あり

山王神社 山王村あり一村の 寺あり

傍に紀の川降りたる谷に... 寺あり

関ヶ原 関ヶ原あり一村の 寺あり

大市姫神社 大市あり一村の 寺あり

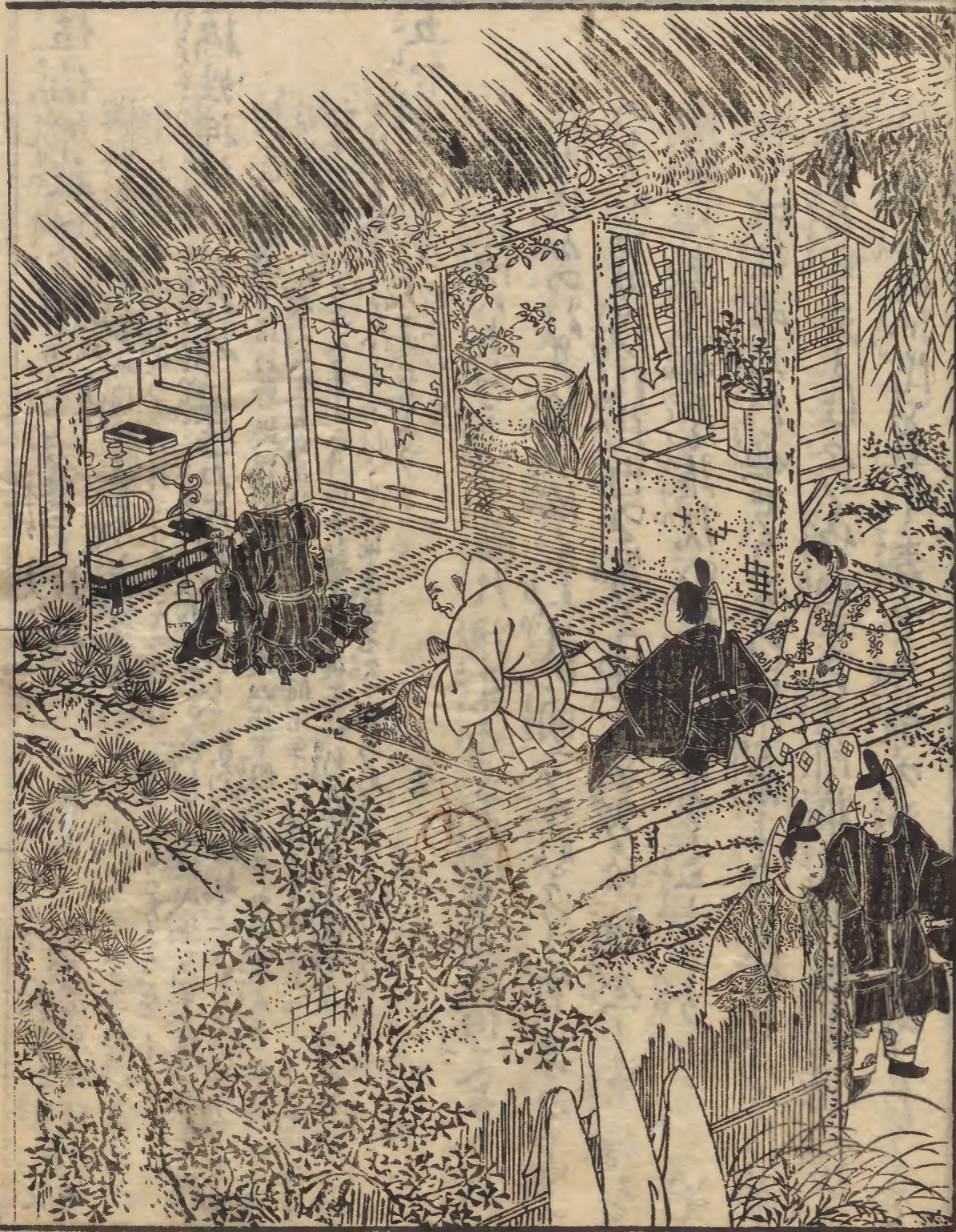
紀神一坐大市姫今相殿二坐 紀神あり一村の

末社 末社あり一村の 寺あり

比賣子大羊神 比賣子あり一村の 寺あり

紀神大國御鬼神 紀神あり一村の 寺あり

中葉... 寺あり



後白川法皇
 五智房の徳と
 慕をもちく
 背向より涙
 後一なる

佐伯神社 中野村にあり一村の主宰 祀神一座室屋大連公 左京外別大連

佐伯宿禰大伴宿禰日敏連臣今七世孫也

橋姓神社 日村にあり 祀神一座左大臣諸兄公 真人曰敏達天皇御孫皇子男房

從二位栗隈王男房於御從四位下美努王下妻從四位下縣女養宿禰東人女正一位縣大親

稱宿禰大夫人天平八年十二月丙子詔參議從三位左大輔養宿禰城王城王稱諸兄公

名號養宿禰城王城王稱諸兄公

五智房の墓 尾上村にあり

新氏離源の五智房と稱根來寺是後上人の伯父あり

より道公の御いひはくは法の圓くられきり嘗て山

の旁とつけは法院内の路は深きと云ふは念一お待を

麻離に考には推坑の威徳は崇と云ふは念一お待を

解脱の徑は瓜形鎮と云ふは比叵東より一人の徳を道者

あり云ふは瓜形鎮と云ふは比叵東より一人の徳を道者

いふ生身の法院と拜し奉り出離の事終はきりたす

信心をこし七日が終るを一日と云ふ靈也

信なる夜の五更の二夜は誰かきれば微妙の妙もあ

は生身の妙もあきんと欲せばに徳をばつと云ふ

圓根なるのありくる五智房と云ふは比叵東より一人の徳を道者

と云ふ思儀の雲ありくるをみても云ふは念一お待を

心身は清むる餘なきこと一徳城殿の内は念一お待を

道者曰徳のありくるをみても云ふは念一お待を

身は清むる餘なきこと一徳城殿の内は念一お待を

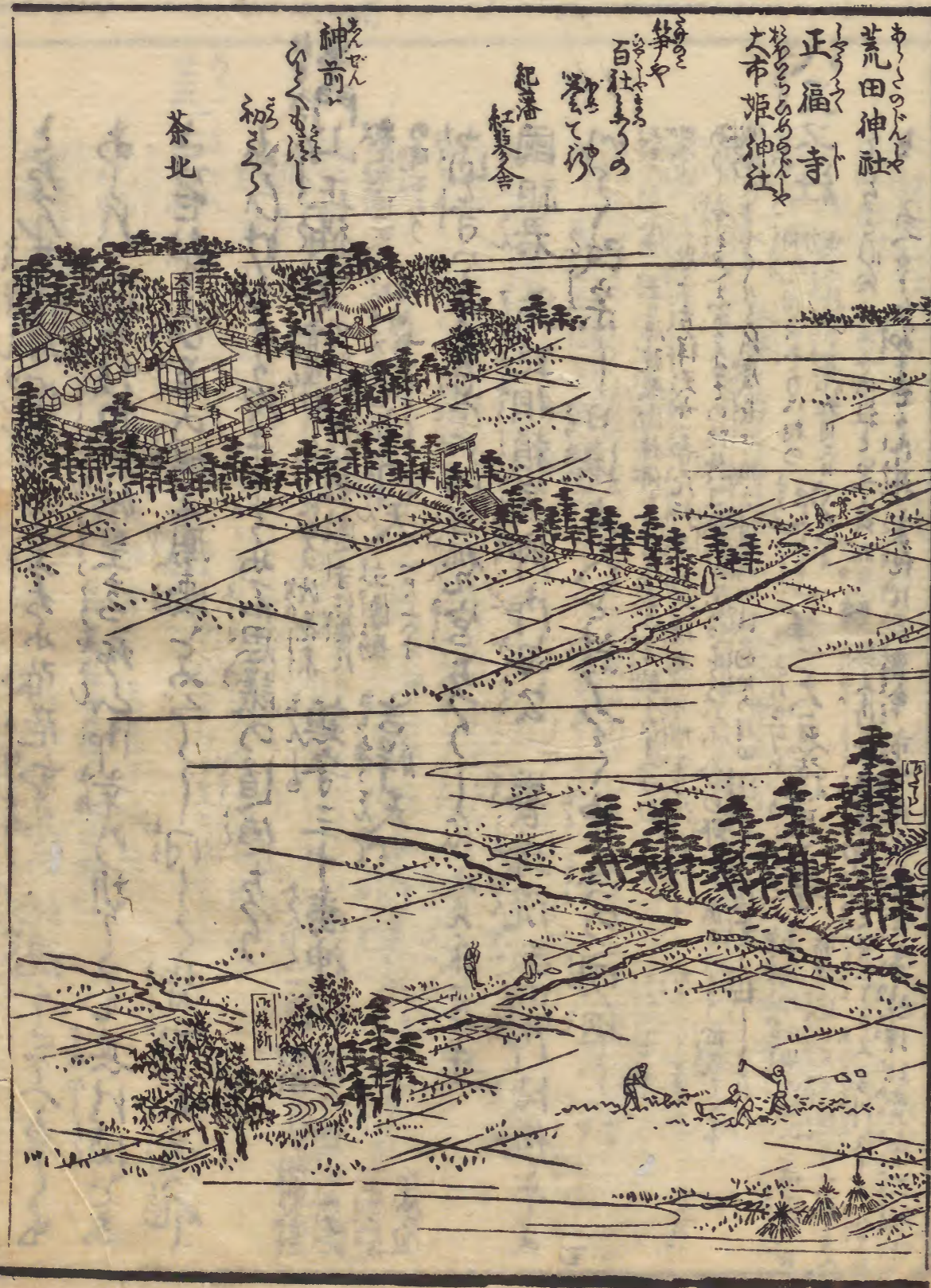
竹の枝の入りてそとるものりき州の戸は五智房が持つ

伊ふらひ都全論候一更に傍み人ありともあつて面

もらちるは道者の法不疑のありくるをみても云ふは念一お待を

醜くもあつて山は思ふるをみても云ふは念一お待を

撲とみんは向谷にほむ心のこゝろあつて



とらん其道心堅固ある者小弥陀如来の化現うごへんも
あはれ山は白川法皇より珍しく幸の折も其は徳と志
こそなき心草の樞も鳳輿とめぐる一はく背面より須弥
あひけりしとめまきとめ不思議の道徳あり

多門山正福寺

曾屋村にあり花宗 鎮守二十番神行
兼應寺持甲増良造立 正徳中桃井氏再建此

本尊毘沙門天

立像長 吉祥天女日善尼師童子
一尺六寸 上土山安

養珠院殿の清波依みよ

國祖君 前亞相賴宣卿亦母公 養珠院殿の清波依みよ

改宗一日遠上人と請うて中真の岡廻らん

八王子社 細毛村より三村の 紀伊一坐天恩德耳尊

勝勝速日天々忍德耳命 天々善早能命 天津日子根命 活津日子根命 熊野

久須毘命以上八 一より八の天恩德耳命 活津座のほら余とて七らの神

とも相殿まきりしとめ

旗井 社頭より三つとめいしとめありの中みありの井中みありと出

赤井 社頭より三つとめいしとめありの中みありの井中みありと出

社頭より三つとめいしとめありの中みありの井中みありと出

社頭より三つとめいしとめありの中みありの井中みありと出

社頭より三つとめいしとめありの中みありの井中みありと出

社頭より三つとめいしとめありの中みありの井中みありと出

社頭より三つとめいしとめありの中みありの井中みありと出

社頭より三つとめいしとめありの中みありの井中みありと出

社頭より三つとめいしとめありの中みありの井中みありと出

社頭より三つとめいしとめありの中みありの井中みありと出

社頭より三つとめいしとめありの中みありの井中みありと出

社頭より三つとめいしとめありの中みありの井中みありと出

社頭より三つとめいしとめありの中みありの井中みありと出

荒

田神社

天疎向津坂命 息長足姬命

祀神五座

延喜式神名帳曰荒田神社三坐 高皇產靈尊 劍根命

本國神名帳曰從四位上荒田神社

横社丹生都姫神社

御旅所

春日神影向石

末社

御手洗池

御旅所

御旅所

御旅所

御旅所

拜殿神樂舎

御旅所

御旅所

御旅所

御旅所

社傳

御旅所

御旅所

御旅所

御旅所

神功紀

御旅所

御旅所

御旅所

御旅所

荒田

御旅所

御旅所

御旅所

御旅所

二月

御旅所

御旅所

御旅所

御旅所

根鳥皇子

御旅所

御旅所

御旅所

御旅所

皇女

御旅所

御旅所

御旅所

御旅所

二座

御旅所

御旅所

御旅所

御旅所

鬼命

御旅所

御旅所

御旅所

御旅所

二座

御旅所

御旅所

御旅所

御旅所

御船神社

御旅所

御旅所

御旅所

御旅所

御船神社

御旅所

御旅所

御旅所

御旅所

二座とつるはらひのふ姓氏録みつゝ荒田直高
鬼命五世孫劔根命之後ちつゝこまみたる
とらる荒田の直高祖なる鬼命なりと劔根命は
乃二座瓜まのまゝあやね泉のくはの陶器土荒田
神社座ありこまは神をたへてまゝくぬるは
弄しこのらのかんぐみほらとて當社つゝみ
へを詔つるま域もいせ廣大めとてこのらつ
もまゝとて歳をたへて神輿の渡幸鑄流馬等
のしんを易ちてとてはとてあるまゝとて天正のこ
ろ根來寺のらやうくつゝとてのらとてとて鳥つ
とちつゝつとて十の二つとての光景をまゝとて
もちつゝつとてつとてつとて

天正六年六月廿日





祀神三座 天玉命 手置帆貞神

この地はつめて根來寺全盛のときか城内はあり
しは五十二年のころからかかつて荒廢ゆつ
根本のやうく枕折敷のそらにあらうと
によむとあらうと葎田多と海とあらうこのあら
の幸ちあらう

住持地

同様のきこひり里説曰むつりこの地は大地を
わらうに室谷右兵衛尉忠家と庄園あまたと領を
原藏高廣と北面のここの地をわらうと此の地は
つりり大蛇とあらうと此の地は大地をわらうと
西しんちとあらうと此の地は大地をわらうと
土卒はまどく地をわらうと此の地は大地をわらうと
害をまどく地をわらうと此の地は大地をわらうと

根來山

一乘山根來寺大傳法院

山壽莊改本村の東北にあり
西坂本村より東にあり河より南にあり
根來山あり
根來寺あり
大傳法院あり

峻峯下蓋處便到梵王臺風度山鐘斷雲深谷島哀

福世謙

紺園已蕪汲壁画半推頓寂冥松門路從人訪古來

傳まむりく役優等養神慶大菩薩葛城ノ鎌の
来く勝地あらうと瓜愛く秘蔵一乘相應乃靈地あらうと
芥かまじ見自らの肖像を彫刻し山林を
なすやあ 此像今護摩堂 殿后堀川院 十三代 徳宗の
一寺造立の志
願ありく那智山の滝に宿る一干日曇り念せ一夜の
根來のそと教わ急の靈地あらう一院を草建とせ
ふまへて告めしとあらう此地かまじつりつり若堂の
一字は建立一豊福寺と号し本尊虚空藏菩薩と安ん

後、真教大師上人當山ありて法幢をたて法雷を轟かす

角僊の兆空しくして仰べしきむじら

大傳法院一山の中央あり

本寺長一丈八尺鳥懸也 鳥羽上皇 九全剛薩埵長を丈二尺侍賢門院の頭髪と座下也

右尊勝佛頂長を丈二尺花紋美福門院の

原當山の奉願真教大師 鳥羽上皇奉く御願寺となす

大正天皇元年高野山御建立ありて後百五十八年を歴く正

應元年根山後と仰奉願真教大師諱は覺正覺地と號

高野山に密嚴院を立く住くる是より世の人密嚴寺者

と奉つたる俗姓肥前州藤津の産けく柏原乃帝桓武天皇五世の

孫平将門属胤侯統承次兼元の子あり

橋氏ありける此後傳の御に仁和寺成就院寛助大僧正とすは

とく松平とて此後傳の御に仁和寺成就院寛助大僧正とすは

俱舎唯識公窺ひ華嚴法相をまふかたしめたり春日八幡慈野

高野の神不護持とてあそとあそと祥瑞多し又弘法大師早く

寺ありてんご公中ゆりあがたまふなりて天承元年十六歳

に之寛助大僧正とてあそとあそと祥瑞多し又弘法大師早く

契印兩部の大法衣はとあそとあそと祥瑞多し又弘法大師早く

の道場より西部の権頂をうけたまふたは眉見より白先は

とあそとあそと祥瑞多し又弘法大師早く

志願堀起しく大傳法院を建て傳法大會公執事と密教と

恢弘し羣生を利濟せんといふ因り東寺に寄寓し縮行明

神ありてあそとあそと祥瑞多し又弘法大師早く

芳野川の辺りには岩子の狂の契券を捨ひて遺者と為て

ぬいたまふ券主する者のころごとく感して岩子の狂はる

若ぬ寄附しなり是年根来山瓜相りて伽藍と建んと

欲し先一祠を名手のたぬ宮をしく日本國中大小の神祠つ
千餘社を勧請しく二部権現と崇めたりて以鎮護と
とに白山権現像をあつて吾上人の善願を隨せし
影のつくまごひく衛護とて宣ふことよき別根來山
の異のゆゑに一廟をうめて崇まりつた治五年花藏院聖
慧法親王を賜ふ旨し九まゝに宮奥乃手公卿や
鳥羽上皇へ奏聞あり院とあり勅し神願寺と傳法
院日ゆびくか丈の尊勝佛頂を安置し学侶二十六十
並は小傳法院とありありて後溢ゆしく大會と
ちひ難くは更ぬ奏しく大傳法院をせらる十月十七日
法密嚴日日本落慶と曼荼羅供養を設け日自上皇臨幸
きりかひ夜かへく大傳法院はくもて傳法大會公を
其密嚴院に居る者常居の室ゆしく奉尊弘法大師御

作の不動尊ちり下の院の神祠春日明神ありむり擁護の約
ゆり今招請とて警の童のくら瓜現とて来降ありて徳産
と二部九社の神廟佛図經藏僧坊ありて建たむり大傳法大
會の供料とて所賜の莊園七ヶ所 石手 山寺 岡田 山東 相賀 志富田 又別
遠及初倉の莊園曼荼羅供の用度めたまへ長兼元年徳性
の珠を造りて多門天王のまもませし寶珠をばんく不動
の鳥羽めねたまへ此宝珠大治のまもたれおの信貴
ゆめ登る皇身陸のまもつたなへて畏沙門天王現形とて
三顆の宝珠を授くる其一顆をうり一顆二兼山めねた一顆自
身護持しとる市入寂のあね根本ゆりむも名手の物莊
の玉塚は塚もまもて緘封しと不効その厨中以垂しと
二年七月十二日上皇をりて鳥羽の寶藏を用因あじ
なまし又詔しと藏中の所有らゆまきとてとて投交ちり



東坂幸村
 白山大権現
 菩提峠
 女人堂不動
 信貴石
 夢石
 地藏堂

若山
 春色
 杖乃
 影



其二

大傳法院
 維濱不動
 大塔
 光明金塔坊
 圓明寺
 御影堂







わんとうりき者さかち高野大師手画の等身の像と善
 女勢王の画像と二鋪を請うたなりて特うとて寺鎮じ
 たまに相國忠通公青龍の感念真福寺の跡也懺悔八幡
 大菩薩の偈を説く禮拜し上皇白蓮の殿上み生じとゆ
 りぬ〜〜かひく尊者の衆肉瓜志ろ〜〜召ま〜〜五藏の祀
 觀み入〜〜の賓生ありに現〜〜暗言〜〜その餘
 靈瑞なるありとま〜〜長兼二年を十二月上皇詔して傳
 法院の座主〜〜金剛峯寺の座主〜〜と〜〜と云
 可承以大傳法院座主職即為金剛峯寺座主令知行滿山
 車被院宣備自今以後承以件院座主即為彼寺座主可令
 檢校一山知行滿寺仍供僧所司等中有闕之時座主擇器
 可令定補滿山諸德宜兼知不敢違戾者院宣如此悉之
 以

狀

長康三年十月廿三日

座主御房

右兵衛督源奉

保延元年尊者四十歳宮建の願満^ん一傳法大會貞隆佛
法の基奉已^ん成立^しる茲^{こゝ}年^に金剛峯寺大傳法院兩御願寺
の座主職公持^り院阿闍梨^り眞^ん誓^いに讓^り密嚴院^に因^り茲^{こゝ}て
三摩地^を修^しむ^べし^むと^する^に二月廿一日より後^に堂外^に出^でる^に
も月^を越^えてより^はあ^まり^の間^により^は窺^ひし^むに
不動明王^とあ^つて^は密樓羅^殿の中^にめ^てを^しり^かて^は此^の中^に
出^でる^に市^により^は密嚴^道場^に坐^すし^むも^も動^かれ^なざ^らば^は門
内^に他人^の出入^をを^しま^しり^し唯^に兼^海龜^云等^西之^人の外^に市^身近^く
赤^のの^うし^しに^は金剛峯寺^の徒^衆嫉^妬を^して^は覺^上人^入威^を
し^しま^しに^は徒^弟未^院勢^をを^しり^しは^は藏^をる^に
お^み戸^をを^しり^し入^りと^しつ^つと^しん^どを^しり^し威^を擊^つ

破^るに^は枯^骸を^して^は先^院の^廳に^はて^て曰^く
覺^上人^滅し^し已^に彌^教年^徒弟^未詭^計を^して^は藏^をり^し
矯^誣聖^聽を^して^は二月十六日^{尊者}定^{より}起^りて^は手^書を^し上^す
皇^女を^しり^し宣^旨を^しる^に属^日有^浮説^而傷^聖襟^忽
手^状至^天瀨^大怡^云を^して^は四月二日^{大傳}法^會の^散座^に坐^する^者席^に
に^臨む^に秘^教の^妙義^を演^じた^まし^り教^百の^聽徒^飲茶^をし^り涙^を
を^しり^し其^後ま^に出^でる^に保^延六年十二月七日^元徒^弟の^の
諍^訟を^しり^し時^有金^剛峯^寺の^徒與^大傳^法院^の論^議を^しり^し不^可者^又其^論を^しり^し園^の衆^及莊^園の^の
壯^丁等^數百^人瓜^あむ^む大^傳法^院の^徒五^百餘^輩此^の奸^計
を^しり^して^は防^だ戰^ん議^をを^しり^し者^定と^して^は制^し止^めて^は
を^しり^し暴^悪の^もつ^つ監^入を^しり^し汝^等を^しり^し兵^杖執^持を^しり^し
沙^門の^化業^にあ^らば^は防^戰と^るの^あら^ば加^法を^しり^し
下^に嚴^め誠^言勵^をし^りと^しり^し涙^をを^しり^し齒^をを^しり^し退^去



八日昧爽光徒等密處院に趨ひ入り定軀を拏らんとならば
不動尊二像相たるべしと相議しと云本材と肉身と雜體也
ば其實否後覚せんとも矢継をのりて像の膝爪續たらむら
無きと云くたみける尊者也歎く自ら妙をあげてたまふ本尊
なるを過すか後いかにあり免れ角も半へて定瓜出せたる光徒
本木像の血滴たる瓜とく身の毛つとらんとする者の佛威は依て
敢て抵觸するものありと考へ明ま瓜荷負く根本ありしに
なす人數百の清衆皆さる者も志とく根本あり今密處院の
奉る瓜雜體不動と稱するは是をり此の像は本弘法大師彫
刻し東寺の西の院に安置するを尊者東寺に寓宿て
手自に像を拏刻する美福門院開召く奉り摸との二像を宮
中におむる佛の供養く摸像瓜東寺へ奉像を密處院に
送らせたまふ其摸像現は東寺にあり寺衆の暴悪をく天誅よ

遠く巨彌宗ま玄信覺ま二十六人を捕へて三衣を脱し
俗めく遠く配流し兼賞本の廿余人の尊者の弟子と
て薪水の役を勤むる誓紙をのりて罪を謝するものにて
二百九十九人満山の僧侶のく盡れ依るに於て上皇
尊者も勅し野らぬにむし者考く日愚昧之徒
於一味法海抱彼此別執ふ可輒示化根來山若役優婆塞經
の之靈蹟形勝不多減野奉所以自大治初豫因基趾伏望在斯
勝壤永激禪波奉祈宝壽天長國家地久と勅して免許せ
淨侶へまざる傳法院にま住し春秋の大會合山の諸規
奉のく執りいたる根本圓明寺を創建し上皇命し佛
願寺と名する佛塔神祠經藏僧坊等數十區を造る永治元
年百日の回求圓持の法を修りま結願の旨向ふ山に五百
の佛面地より涌出る其所をまら求圓持のま

五百佛の... 常々田月寺の西廂に坐して其宗の秘規
をこじたまふ金色の阿字壁間の炳現して堂の内照耀々
まご堀の内坊に月輪現はる堂前を善徳竜王の小池あり
一月輪水上に現はるる二尺をうり浄弟子達本版に摸して
とむこれより堀の内坊に月輪現はるる其版圓月寺あり
と云康治二年三月十九歳七月廿八日たらきら凡のこらめるを
なす大衆を勝多羅尼を端平愈をのり者曰生北世常
ゆくより誰より免さん只速疾成佛をいのぶと十二月十日
圓明寺の西廂に結跏趺座し手に秘印をもち口を密咒に
誦し禪定め入りて終に声収息絶れ生涯四十九歳
に縁の薪たららに五時の説きまご満ちるとを傷み海
度の船とてまきとて雙林の跡に先遠くをうむ山鳥梢よ
啼く別離の跡に副嶺松嵐に咽く哀動の声をたたく

徒衆あまらうと號哭し緇白をせりて涙泣く入滅をうか
まぬる者へをうりた 已上根來寺縁記
大意なり

雪玉集

天文二年四月廿日大島の社信田の表をどり入取もあつそ
づらの行めら社のあまに興うたをうり根來より乃
迎ひて馬二疋をせり人のあるまきまありて食菴傷
ののあどりせたり思ひのどるむむが侍りかの寺の
十輪院とつる當時一山の字頭碩字のまきえありとあん
坊ゆきみ入権頂をたあひて後朝のいそをさへびたれ
弟子の實相院とつる坊ゆきみとびたよりの菜内とらんを
角して根來ゆきりたるとて衆徒十人あり立はるあり
てむく入るんよとあり旅のやはとわらひけぬとわらひ
とぬぐ色代とてと興あつと大門のうらまんと入る

後みきけはなむかりなるふは侍るくちんく遊み諸堂巡り
侍り山中見る物のこくひくかこころのさつりふさうは奉堂
傳法院めくむひはげけり

高砂山口ににほふささめ法ははせん世のあも 内大臣實隆
雜ゆと不動を拜見し

動とあは身をりけてる樂を血のほどもおきてる 全
續後拾遺

夢の中は後も現も夢あはれさるる後も現も志を 覺錢上人
此後孤なりし物に

あめん現も志は七十のささめははる 夢の世のあう 内大臣實隆
実相院にふ所あつてこそいれうちや

すこめらるる初夜の鐘はきこく
あめまひるる花ははらばらるるのの聞あり 全

あるとは鳥羽院市梅物の市籠を上人ゆまのるをねの上人そと
賜りてききりしり

真澄鏡ははらむる姿を誠か三世の佛をりる 覺錢上人
太上皇の市へゆ

續千載集
なにかき誰も佛かちるる鏡の影ははらばらるる

西行上人撰集抄云

近頃ゆらやのささめ本貫錢上人もやむく那多いどをねたり
真言を瓜ふりきりめく一印頓成の春の花はゆら寂寞の霞
の夜ふらう一禪心合掌の秋の月いりるを毎垢のむらうらめ
てて弘法大師の昔の跡をねる傳法院との志ははらむ
龍花三會のあつたをまらして入定をまらしてけり中畧
らふいぬる初徳のあるものあつてもうく大師の市を

あつたゆりまきとて傳法院へも彼覺後の入定さぬんを議して
依りてせにたり覺後の門徒をくへき力あそくちりくぬたゆりぬ
本地の僧入定のともぬれくくるぬ不動尊二尊にまはしけり
一醉の覺後の目ごころの本さるの不動ゆりぬて今ひるの
聖の化くるゆりぬも但しつづれと見えたるはいつくすごことあらひ
なるぬある僧の二尊の不動をさるなりゆりぬ少くあそくぬれ
けさすあゆりぬで覺後よそとて力ゆりぬきりぬれぬもあきれり
ゆりぬとてゆりぬきりぬぬ覺後さるぬはぬよきぬれたまふなり
かゝるぬゆりぬの谷ゆりぬる其後覺後さるぬゆりぬもまらぬ
りごう那まか此所ゆりぬぬに紀伊國根本ゆりぬゆりぬをゆりぬ
てわたりゆりぬる四十九ゆりぬる十二月十二日あん生生の素懐とてけ
たぬへまるとる人諸も書置とてあるとての中ゆりぬ禪三昧のゆりぬを
誘ゆりぬをゆりぬたりゆりぬもかどとてゆりぬとてゆりぬぬゆりぬぬ

きり信ぬ誘ゆりぬ利せんをせかたれぬゆりぬゆりぬとて身ゆりぬ
とてたゆりぬとて侍る 下略 今據 芝波 定めてゆりぬゆりぬゆりぬゆりぬ
文とてゆりぬゆりぬゆりぬゆりぬゆりぬゆりぬゆりぬゆりぬゆりぬ

○什物品

- 一 鳥羽天皇御肖像 岡山大師筆 一鋪
- 一 開山大師影像 鳥羽天皇御筆 一鋪
- 一 兩界大漫荼羅 弘法大師御筆 二鋪
- 一 日 關山大師御筆 二鋪
- 一 日種字 二鋪
- 一 佛舍利 二鋪
- 一 不動明王大御鈕 長七尺三寸 文珠金助重國作 一振
- 右 南龍院殿御穿珞 廣三寸五分
- 一 散樂假面 二百餘面

右 前中納言大真公御寄附
其餘繪木佛像佛具世具珍器寺奉屋（以下略）

○住古堂塔大概

大塔 五間 置高十八間 本尊金大日如來 長三尺四寸五分 今三尊

大師堂 三間 御影木像 長三尺 不動堂 二間 置瓦背 經藏 二間

阿弥陀堂 三間 鐘樓 中門面五間 敷屋 湯屋

右大傳法院境内小あり

錐鑽不動堂 五間 置八角形 本尊不動明王 長四尺六寸 樓門

求聞持堂 三間 多寶塔 三間 經藏 二間 地藏堂 長三尺四寸

春日社 下院云 拜殿 鐘樓 敷屋 毗沙門堂 天満天神

右密嚴院境内小あり

御影堂 面十七間 中尊覺鏡御影 長三尺五寸 左照相應不動

右服尊勝佛頂 二部推現 卒表家種字

伊志祈曾社 御藏 鐘樓 樓門 中三門 秀節六間

右圓明寺境内小あり

豊福寺 五間 本尊虚空藏 長尺五寸 薬師堂 二間

千手堂 三間 鐘樓 中門 地藏堂 閑山堂 役行者堂

九社大明神社 三々合九社云々 拜殿 宝塔 荒神社

右豊富寺境内小あり

千手院 三間 本尊阿弥陀佛 文珠堂 三間 鐘樓

毘沙門堂 三間 不動堂 三間 丈六堂 三間 本尊阿弥陀佛

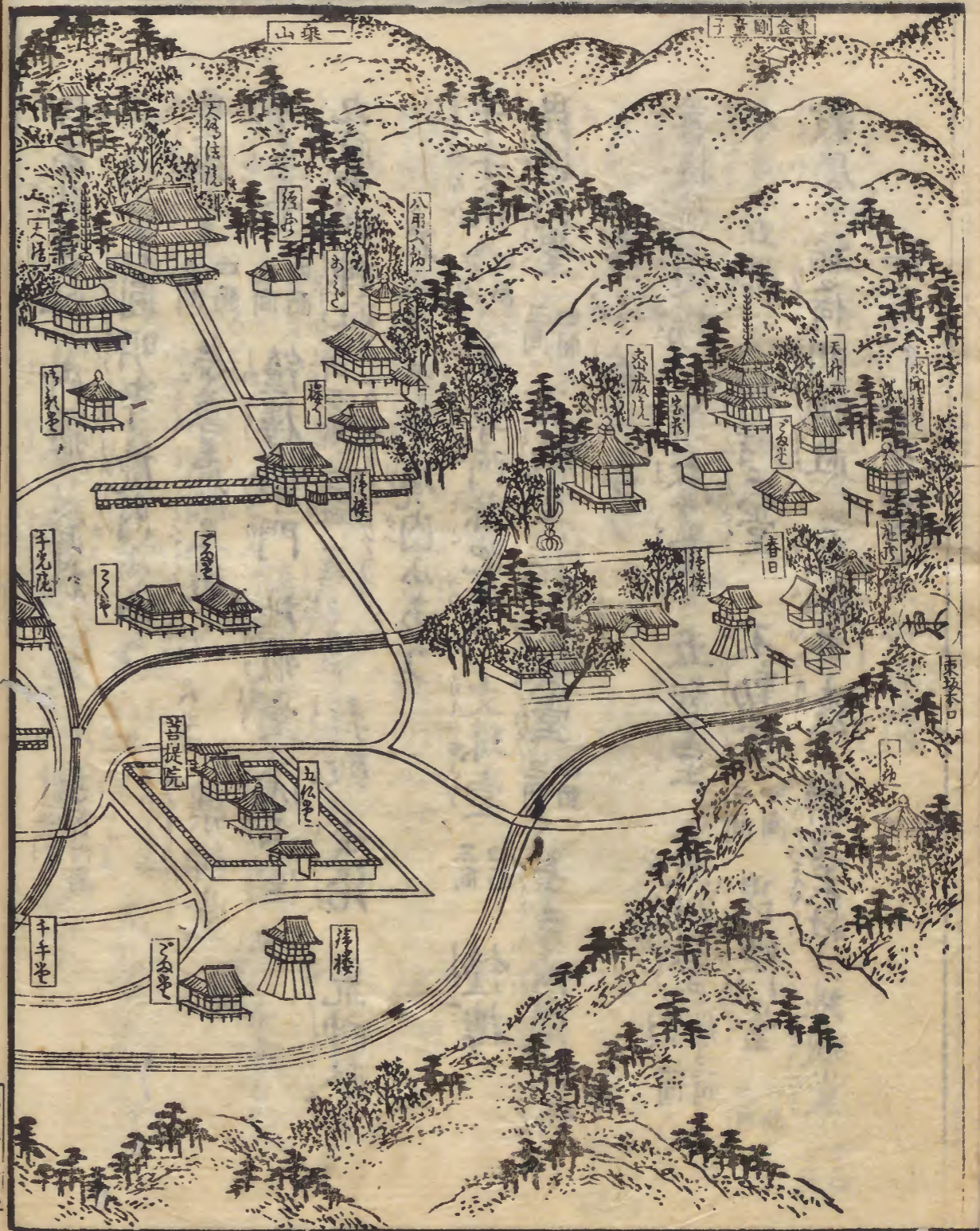
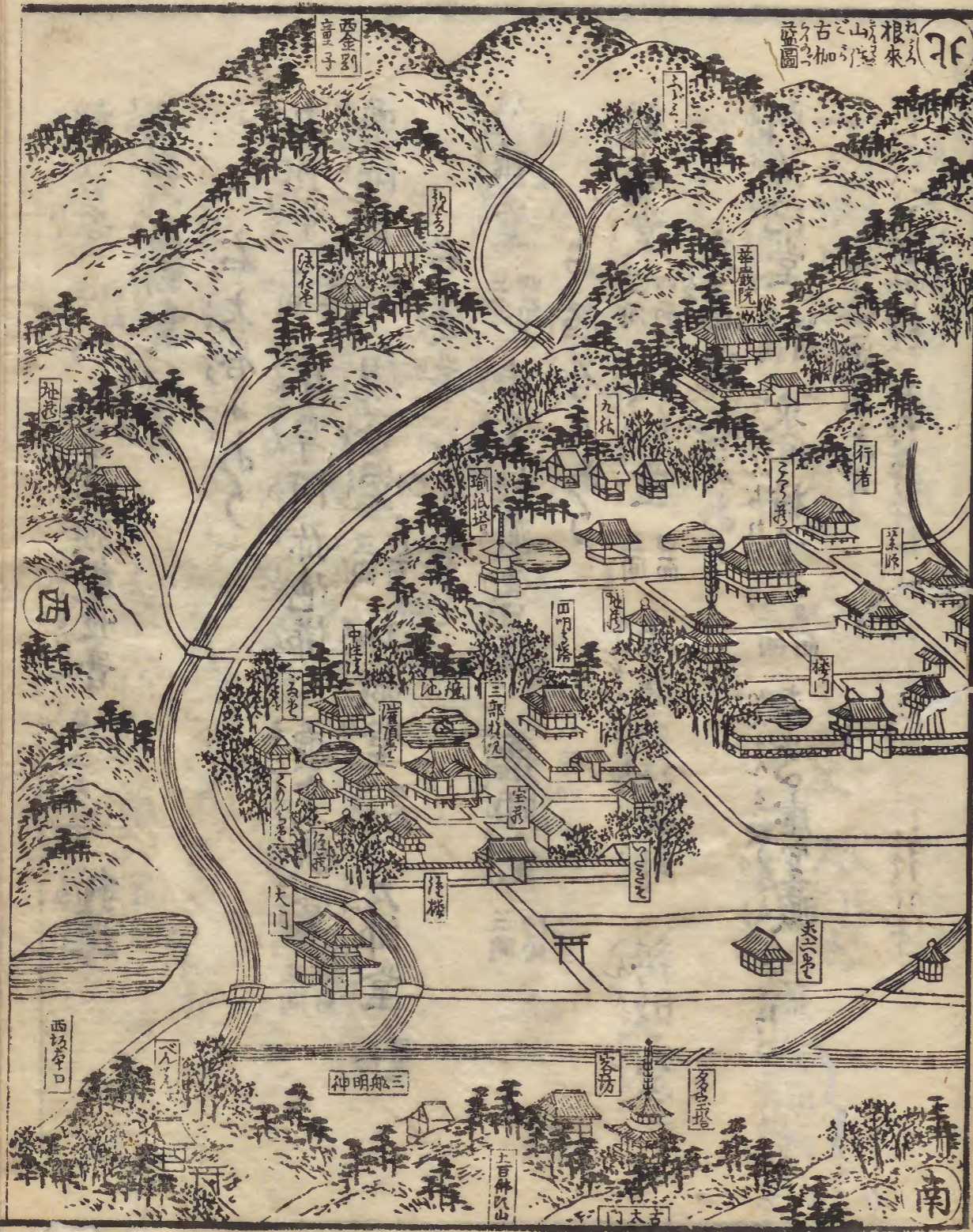
右小谷小あり

菩提院道場 護摩堂 五智堂 五佛堂 横三間

本尊五佛 辨財天堂 不動堂 三間 毘沙門堂 三間

敷屋 稻荷明神社 岡伽井炎 辨才天社 地藏堂 三間

右菩提谷小あり



観音堂 三間
八角の不動堂
本尊馬頭観世音 長三尺一寸 鐘樓

右大谷あり

五寶堂 三間
本尊阿弥陀佛 虚空藏堂 三間

薬師堂 三間
観音堂 三間
地藏堂 三間
大師堂 三間

右蓮華谷あり

地藏堂 三間
本尊地藏菩薩 薬師堂 三間

右西谷あり

観音堂 三間
大師堂 三間
本尊弘法大師 辨財天堂

右菅浦谷あり

阿弥陀堂 三間
求聞持堂 三間
本尊虚空藏 稻荷明神社

御船大明神社 辨財天社 拜殿 稻荷明神社

右前山あり

一山境内 南十町半 西十二町
大門 大橋 大門地

番屋坂 下馬口 百坂口

菩提峠口 賞錢上人の御作

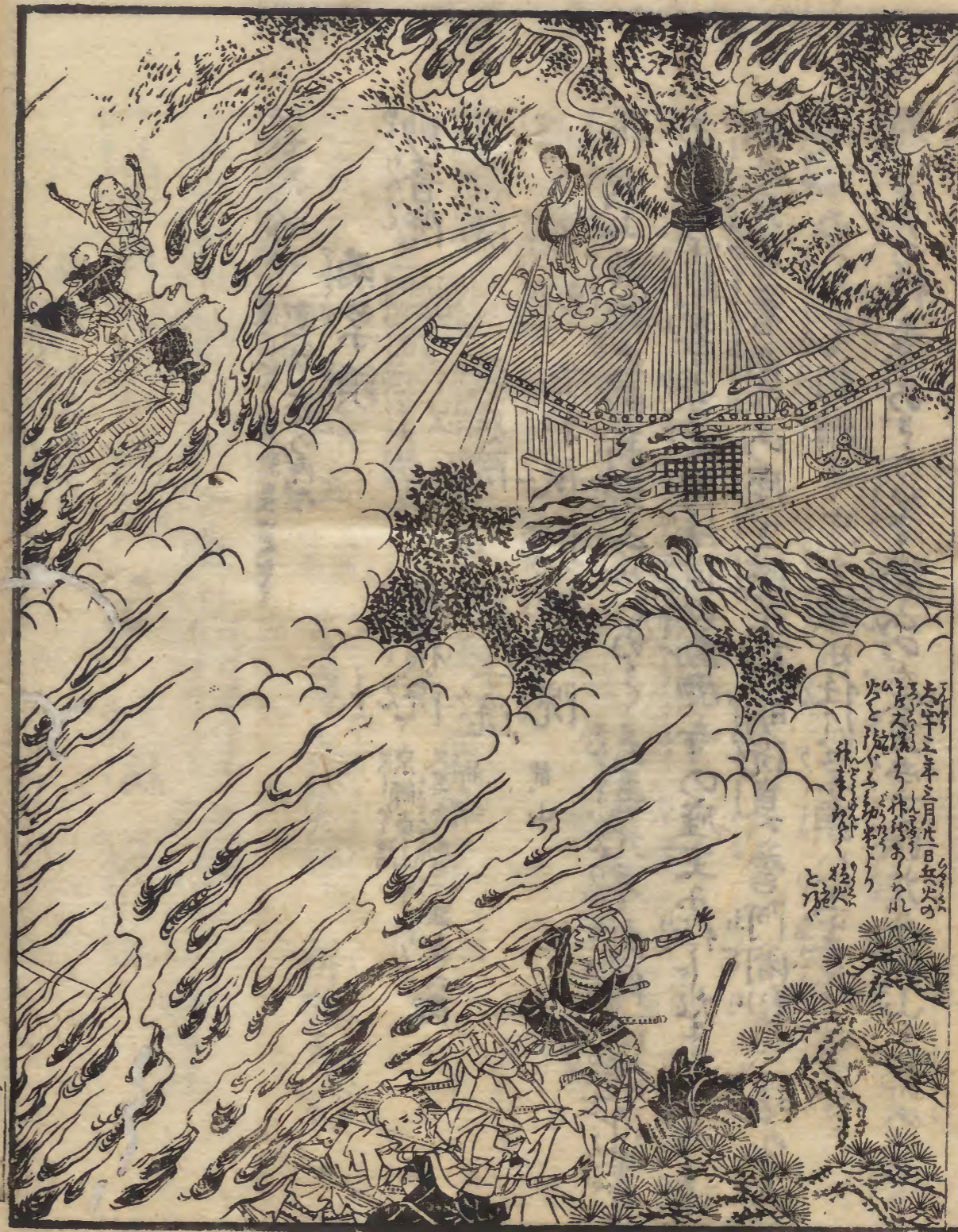
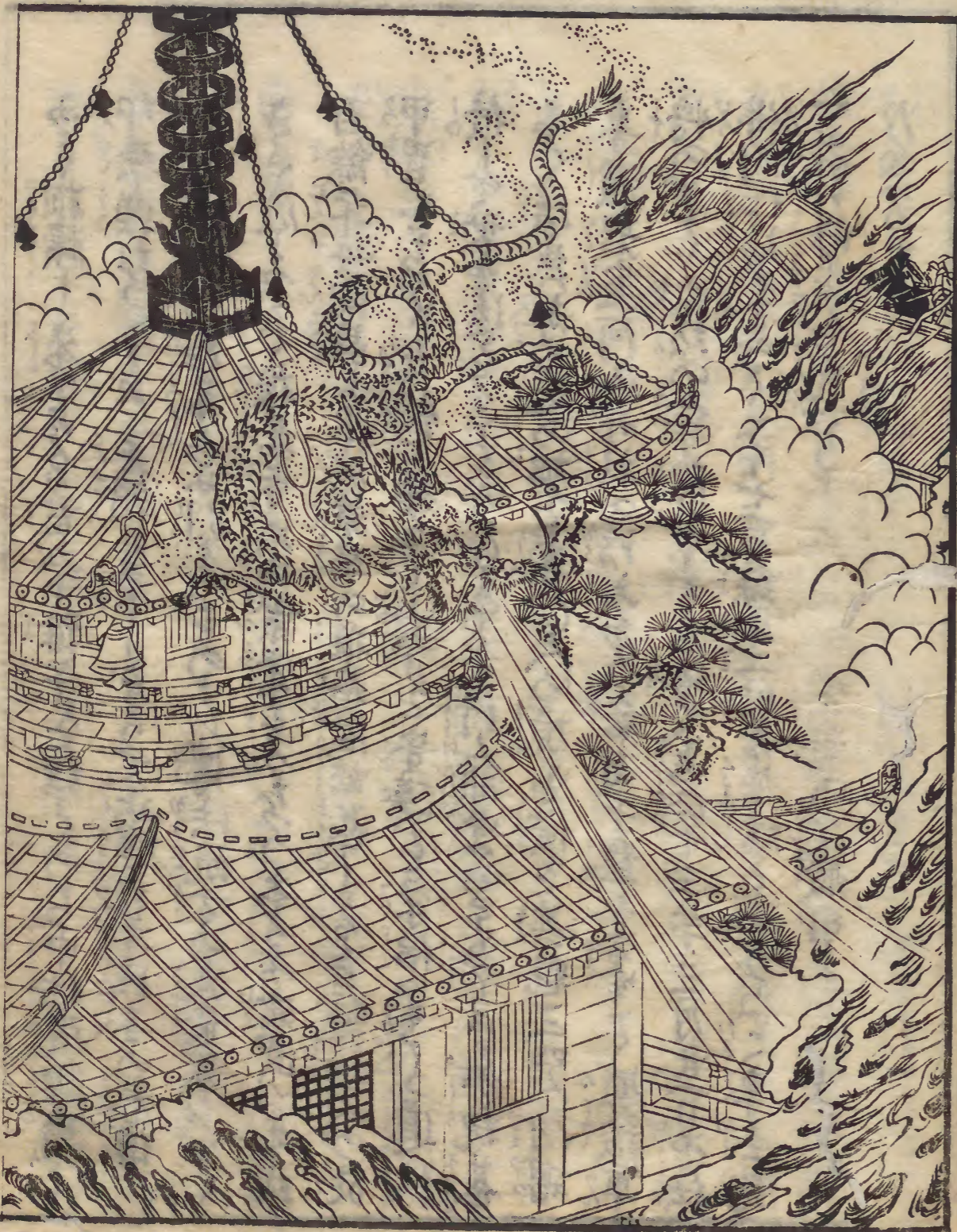
两学頭

妙音院 智積院 京師東山あり

月輪院 教應院 小谷 修学院 前山

釋迦院 惣持院 大塔の 理趣院 前山

抑開山興教大師高野ふねわく天養元年大傳法院中建立
ありて金剛峯寺大傳法院兩勅願寺の座主お任せなす其後
保延元年春兩寺の座主職を持明院真善阿闍梨へ譲り
隆海あり多相續く座主職お任せ学頭へ宝生房教尋あり
曜覚房信惠あり等満の座主学頭尤も因山大師の口葉



みく相續し來りたる百五十餘年を経くのち中性院頼瑜法
印学頭たりとて天朝を奏しきりて正應元年戊子の春傳法
密巖二基瓜根本らふ引うつとのとて傳法院方の大衆ありく
きつらばより根本寺大僧繁榮するありきつらば建武乙未武
百餘年世間静ちるび軍卒の狼藉隘妨甚しきつらば行人の徒
甲冑をもち兵杖と擽つて山寺を守護と學侶もく道瓜
徒して世を遠くつらば行人非學のさむぐらふ執甚
きく後々都ら他の地を奪ひ人の境を侵し其魁二四人所謂
專識岩室阿伽井杉の坊あり各百千衆を率く威後軍
將のぞく大坂の命ゆ従らる依て去十三年三月廿一日
佛閣作坊あり二百七餘宇一時灰燼とありぬ大傳法院
下廊は此災を免らる一瓜京師紫野の文藏司と云人豊大
なるりて寺は毀ち奉首たり瓜瓜を船積りて淀川を

引のぞく其後慶長京兆板倉伊三聞く文藏司を呵責し
根來(送)りつらむる耐奉尊三休の根來へおろし返りたり林
本ありふ大坂の棄をく朽敗するあり慶長のころ法度
九京を幸長干時命し根來山の四至傍示をいし山林濫伐
を禁止元和九年國祖南龍院殿彦坂氏命し法度
とてめ東西の坂幸に制れをうけ下馬ねび下乗の本牌瓜
立させたまふし行人未割據血腥の固執あるを除く數年山
中穩ありきつらば實曆元年國君大惠院殿おま野野氏
日向半命し行人お瓜逐ひたるひて蓮華律乘兩院をりく
兩寺頭と定めきつらば瓜寄て僧厨を資たるふまき根
嶺再自ら此君のちくらに依まり嗣君菩提心院殿先考の御
ころ瓜續く衆僧をく國家の安全をいのくし又
常光明會の大婦人清信院禪尼との御願をり住持智積院

僧正運敬 此山妙心 前山の 慈尊の 善提院 の 跡に 小堂を 構へ 岡山大
 師の 宝塔を 安置し なりし 何れ 久く 奥院の 淨廟所 といひ
 はらぬもえし 浄廟所 の 墓山の 麓に ありけり
 まは寛政十の 年前の 小池坊 僧正法住 ちからにをとりて 石窟を
 を 築け 浄廟塚 と 称し たりて 大傳法院 再建の 事と
 國君の 命を 前黄門 公大真 隨者 齋休 休し 資質 三子 を
 入法 嗣運 卒院 法忍 僧正 先師 の 遺命 を 續く 常光 明真
 真言 堂を 造建 あり 黃門閣 下常 光明 真言 殿の 扁額と
 と 手書し 賜へ たりし 清信禪 尼公 の 林房蘭 室を 移し 玉
 庫裏厨 屋を あら 建け 傳法 密嚴 の 林本 瓜あ つめ 神社
 佛岡 僧房 等の 輪奘 復せ たりし 瓜ね ぐみ 禪餘 造像
 堂塔 の 事を 記し たりし 文化の 五年 ありし 事也
 必聞 けし 侍り たりし 事を 記し たりし 事也

櫻樹

岡山大師手記
栽

ころころと那むらうけたる老木ありも

近江 木 節

碑陰

塊亭翁若冠の頃 常明僧の 偈を 真言の 密旨授 たりし 折り 當山懐 回の 句を
を 記し たりし 事也

紀藩 塊亭翁

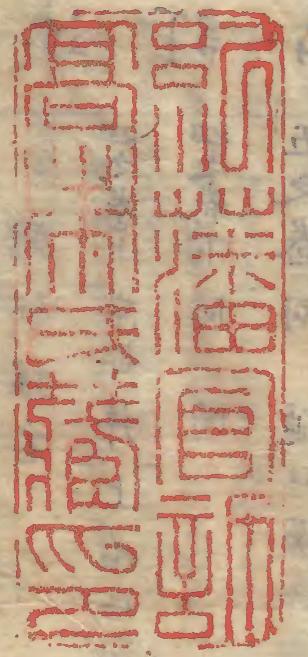
文化甲子春三月

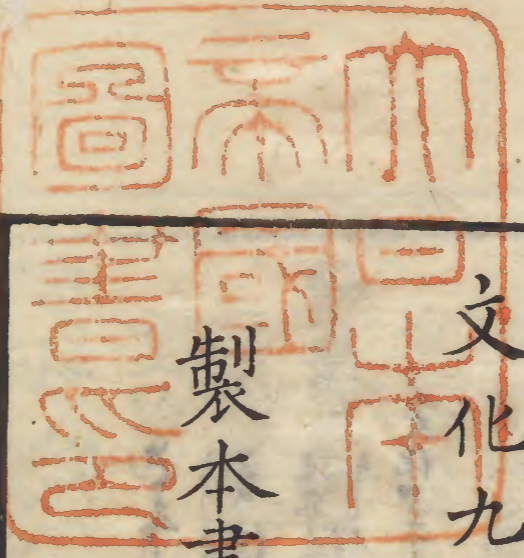
府下 口人 津守某
 江島道之

紀伊國名處圖繪卷之六下終

寛政八年八月官輸上准

文化九年二月海宇發行





若山 高市志友編述

雕刻姓名

浪華 武内華亭刪訂

四之卷上 京都井上治兵衛

西邨中和圖画

四之卷下同 同

京師

渡邊玉壺齋書

五之卷同 樋口源兵衛

六之卷上 大阪山崎庄九郎

文化九年壬申正月

和歌山

帶屋伊兵衛

製本書林

浪華

河内屋太助

六八十六

小學正文

尾藤先生改点 素讀本新刻 全二冊

補正初學指南抄

毛利貞齋著 小本 全一冊

韋注國語

千葉先生再校 大奉先生著 全部六冊

同増注

唐本翻刻 全部八冊

同明堂本

泰鼎著 全部六冊

同定本

松寛先生著 全部四冊

同略説

橘南谿著 全部一冊

同律呂解

袖珍本 全一冊

大成左國字引

此字引ハ文字探リ易キタメ總畫ヲ以テ引カシム學字左國ヲ讀シテ飲スルニハ先アラカシメ此字引ヲ記得セハ開卷ニイタリテ必裨益アルノ書ナリ

考槃餘事

小本 全四冊

此書ハ唐土歷世書画古法帖等ノ評論ヨリシ紙筆墨研或ハ茶酒香茗鐘瓶几案服御又ハテ一切事物全ク備ル其要或ハ其偽精粗ヲ辨論シ或ハ製造試擇格藏ノ精法ヲ考ヘ載ス實ニ賞鑒好事家務ニ必用ノ小冊ナリ

御書物所

前川文榮堂

河内屋源七郎

大阪心齋橋通北久寶寺町

